2023(令和5)年2月 ワクチンセミナー講演会資料

最近の予防接種の話題 【C】

名鉄病院予防接種センター 顧問 宮津光伸

- ▶ ワクチンの考え方とその目的を考えて接種計画を立てる。
- ▶ 接種間隔の理由を知れば勘違いや不利益も起こらない。
- ▶ 生ワクチンと不活化ワクチンの特性を理解して計画する。
- ▶ 不活化ワクチンは、適切な接種時期と間隔そして回数を守れば 有効な基礎免疫は成立する。10年間ほどで追加を考える。
- ▶ 生ワクチンは接種回数ではなく十分な免疫を確認して初めて有効。流行が少ない世界では10年後には低下してくる。
- ▶ 母子手帳の記載はワクチン名、日付など海外向けに英語表記されている。接種日も西暦で記載すれば接種記録の英文翻訳書類となる。

【C】麻疹・風疹・おたふく・水痘の生ワクチン の接種目的と考え方

1歳過ぎに2回の接種で大丈夫は、本当か?

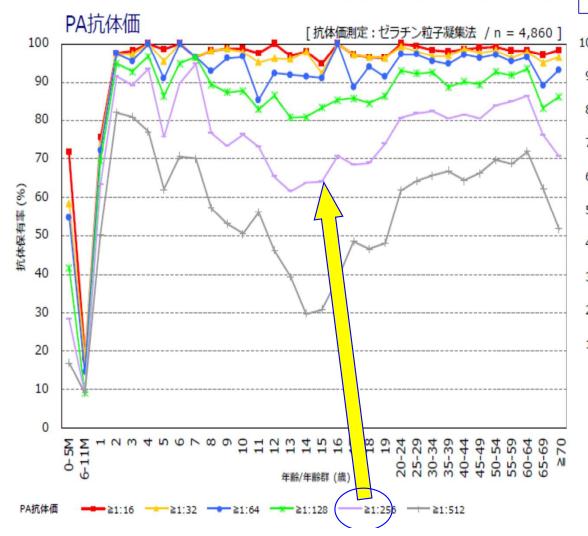
麻疹風疹おたふくかぜ水痘抗体検査検査で 陽転確認し、陰性なら速やかに追加しましょう

「大切なのは接種回数ではなくて陽転確認です」

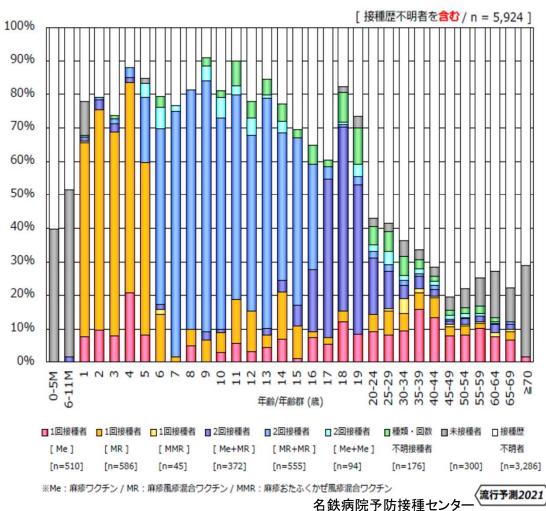
年齢/年齢群別の麻疹抗体保有状況, 2021年**1

~ 2021年度感染症流行予測調査より ~

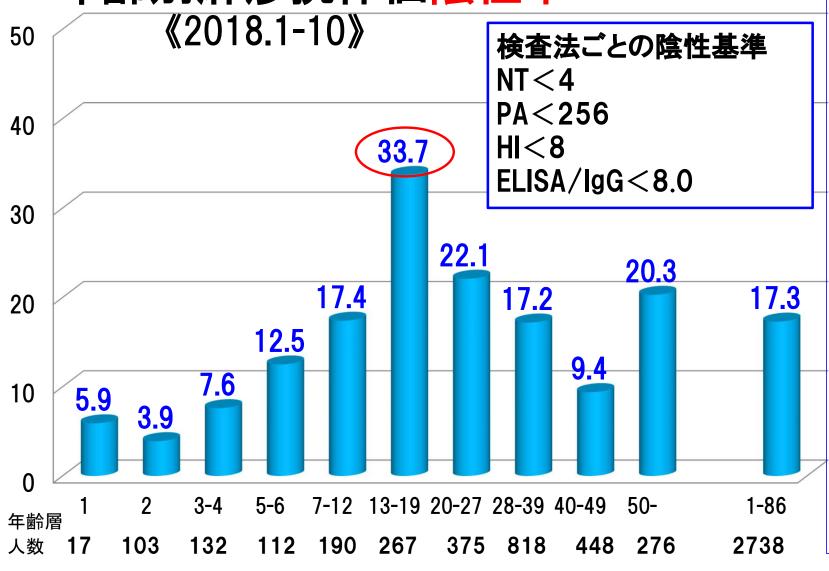
※1 主に2021年7~9月に採取された血清の測定結果: 2022年4月現在暫定値



学童から高校生の麻疹ワクチン2回接種率は80%あるが、陽転率は60~70%にすぎない。2回接種では明らかに不十分。



年齡別麻疹抗体価陰性率



麻疹は感染力が 強く、合併症も多く、重症感がある。

2回接種世代の 陰性率は国の調 査と一致してい る。(33.7%陰性)

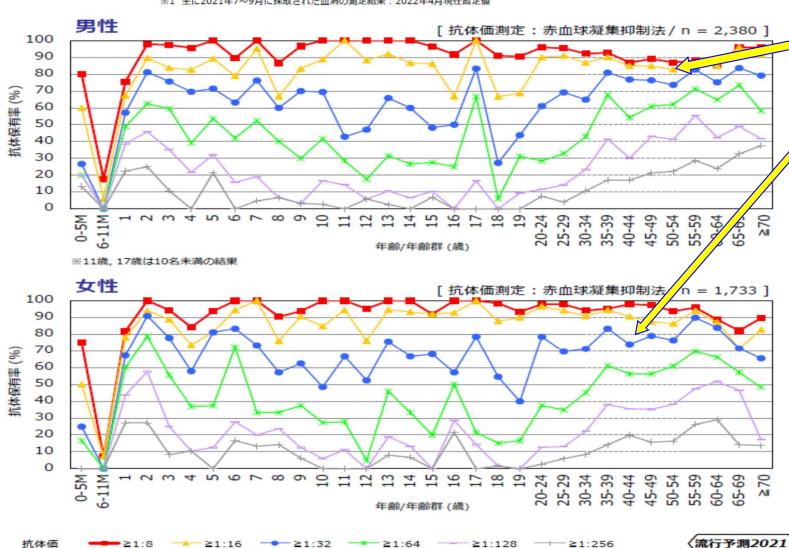
国内よりも海外 での流行に晒さ れる。

アジアは流行の 常在地 (生後9カ月と15-18カ 月、4-6歳で接種)

年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況, 2021年**1

~ 2021年度感染症流行予測調査より ~

※1 主に2021年7~9月に採取された血清の測定結果:2022年4月現在暫定値



風疹H法の 陽性基準 男性は16倍 女性は32倍

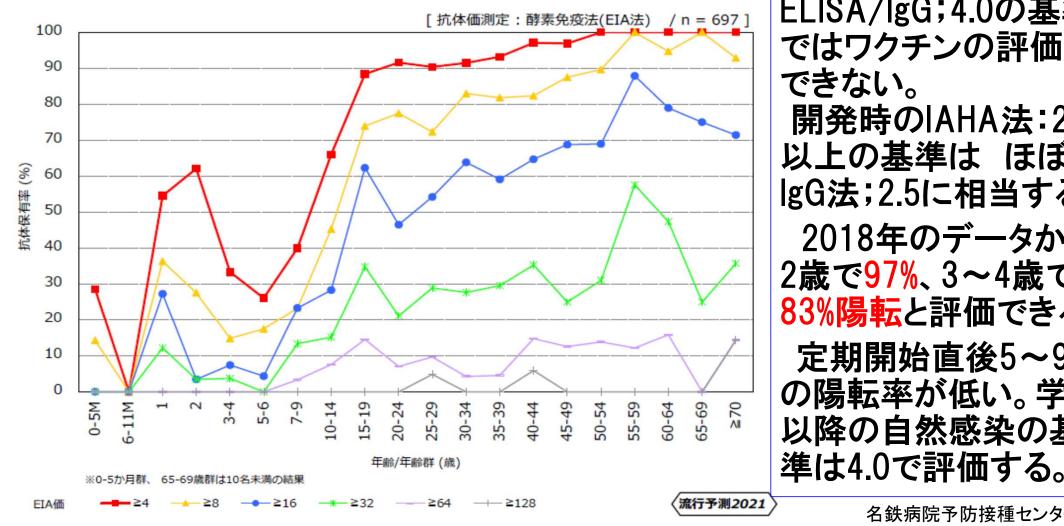
男性の第5期の 対象40-50歳代 陰性率 15~20%

女性は妊娠希望 世代での陰性率 25~30%

年齢/年齢群別の水痘抗体保有状況, 2021年***

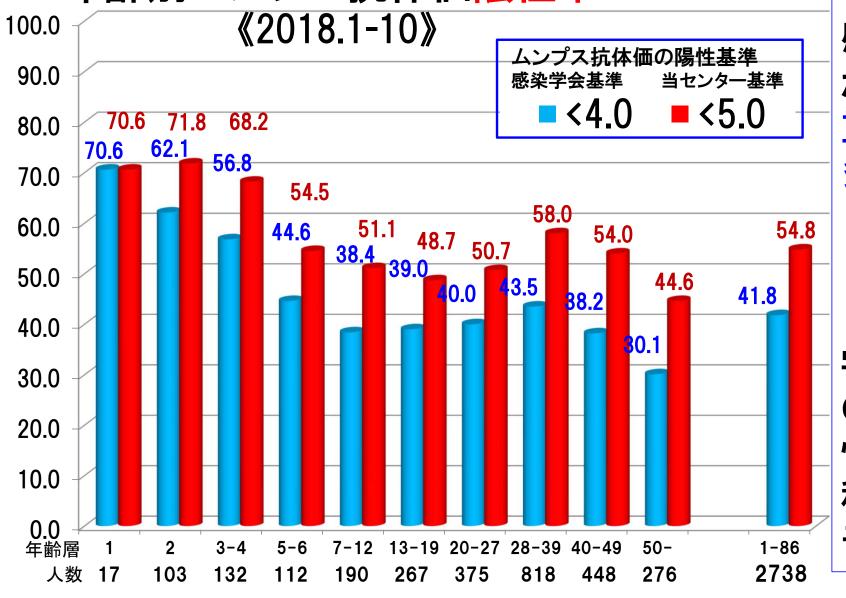
~ 2021年度感染症流行予測調査より ~

※1 主に2021年7~9月に採取された血清の測定結果:2022年4月現在暫定値



水痘は2014年から 1~3歳で2回定期接種 ELISA/IgG;4.0の基準 ではワクチンの評価は できない。 開発時のIAHA法:2倍 以上の基準は ほぼ lgG法;2.5に相当する。 2018年のデータから 2歳で97%、3~4歳で 83%陽転と評価できる。 定期開始直後5~9歳 の陽転率が低い。学童 以降の自然感染の基

年齢別ムンプス抗体価陰性率

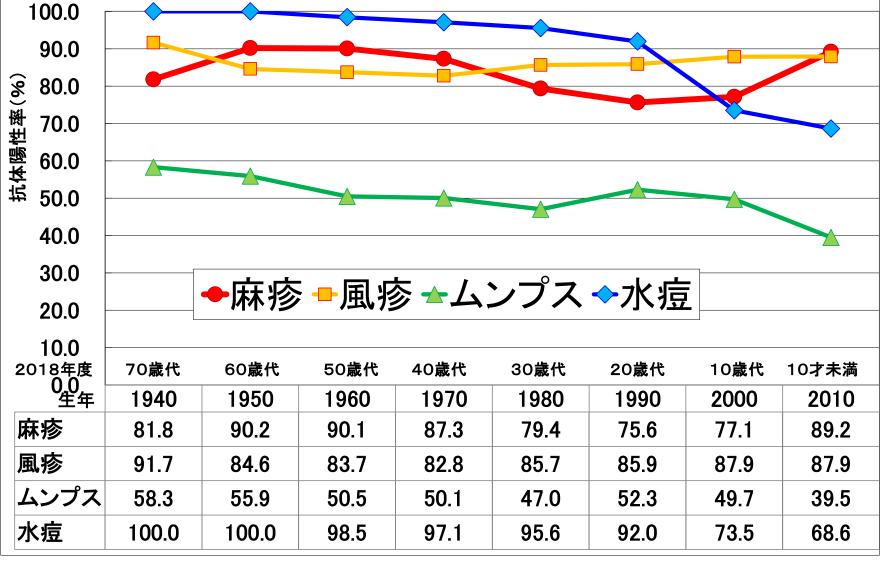


おたふくかぜは 感染力は中等だ が、罹患すると 重症な合併症が 多い。

髄膜炎(2-10%) 難聴(0.12%) 不妊症(0.01%)

学童以上・成人 の40~50%が陰 性。ワクチン接 種と陽転確認で 予防する。

年齢層別の麻疹風疹おたふく水痘の抗体陽性率 (2008-2017) n:23,000人



当センターに 受診し検査し た10年間の全 データを示す。 麻疹と風疹は 80%台の陽性 率を維持して いるが、水痘 は10歳代から 低下がみられ、 ムンプスは全 世代で約半数 が陰性。

臨床とウイルス (0303-8092)47巻2号より 名鉄病院予防接種センター

≪推奨する抗体検査法と評価≫追加接種の推奨基準 〔検票記載の基準とは多少異なる。【 】を推奨〕

追加接種基準
•• 4倍未満
128倍以下
•• 8.0未満
• 8倍以下
• 16倍以下
Parotitis]
•••5.0未満
···· 6.0未満
•••4.0未満
••• 2.5未満

1回接種後**陽転率**(未罹患・未接種児)

麻疹(MR) ワクチン 80-90%

風疹(MR) ワクチン 70-90%

ムンプス ワクチン 20-50%

水痘ワクチン 70-90%

予防接種の目的と考え方・・・・罹らない、罹らせない ための方法・・・

【適切な接種方法を遵守する】

- ≻推奨されている時期(月・年齢)に、決められた<mark>間隔で、必要な回数を接種</mark>
- ▶不活化ワクチンは、適切な接種でほぼ免疫ができるが、5-10年間で減衰低下する。
 追加接種を忘れない
 ; DPTと日本脳炎の2期
- ▶生ワクチンは、免疫が陽転すれば有効。陰性のままでは期待する効果はない。
 免疫不足は追加接種;免疫の陽転確認
- ▶ワクチン接種による免疫抗体は徐々に減衰する。 必要に応じて免疫の持続を確認

不活化ワクチンは、基礎免疫終了後10年、 生ワクチンは、陽転後10ー20年で追加を考える。

婚活・妊活に向けて、感染症をチェックしましょう

<u> 風疹</u> は妊娠初期に罹患すると胎児に障害が出ることがあります。

水痘 は出産直前に罹患すると新生児が重症の水痘になり危険です。

麻疹とおたふくかぜ は母体の症状が重くなり流産の危険が出てきます。

百日咳 は母体も激しい咳嗽により流産の危険が高まる。新生児に感染させる と呼吸困難を併発して、重症な肺炎や脳症を合併して重篤になる。

⇒ これらの5種類の感染症は婚活・妊活に際して、妊娠前にはきちんと対策。 配偶者や同居家族にも推奨します。

初日に、DPT3種混合《破傷風ジフテリア百日咳》を接種して、

同時に<u>麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査</u>をする。

その1週間後には不足分を追加接種する。<u>6週間後に再検査で陽転を確認する。</u> 生ワクチン接種後、女性は4-8週間避妊する。男性は不要。

名鉄病院予防接種センター 宮津 光伸